

繰り返す筋肉内血腫により明らかになった 血友病 A のラグビー選手の 2 例

○十倉 健男 (とくら たけお) (MD)¹⁾, 杜多 昭彦 (MD)²⁾, 荒木 大輔 (MD)³⁾,
藤田 健司 (MD)⁴⁾

¹⁾ 六甲アイランド病院 整形外科

²⁾ 神戸海星病院 整形外科

³⁾ 神戸大学 整形外科

⁴⁾ 藤田整形外科・スポーツクリニック

【症例 1】

16 歳男性 ラグビー選手

小学校 2 年生よりラグビーを始める。平成 24 年 11 月 (12 歳時), 練習後に左下腿部の疼痛が出現し, 藤田整形外科スポーツクリニック (以下 FOSPOC) を受診。下腿三頭筋打撲性筋炎の診断のもと, 保存的に加療し, 軽快した。その後, 平成 24 年 12 月に特に誘因なく右膝の皮下血腫と疼痛が出現, 平成 26 年 12 月には右大腿四頭筋血腫にて, 血腫除去術を施行。さらに, 平成 27 年 4 月に右大胸筋挫傷, 平成 27 年 9 月に左橈側手根屈筋筋肉内血腫, 平成 28 年 4 月に右大腿四頭筋挫傷, 平成 28 年 7 月に左腓腹筋挫傷にて FOSPOC を受診。筋挫傷を繰り返すため, 基礎疾患の有無を検索するため血液検査を行ったところ, 第Ⅷ活性が 9% と低下しており, 血友病 A と診断された。

【症例 2】

18 歳男性 ラグビー選手

高校よりラグビーをはじめる。平成 27 年 1 月 19 日 (16 歳時), 試合中に接触し右大腿部痛が出現し FOSPOC 受診。右大腿四頭筋血腫の診断のもと, 保存的に加療し軽快した。その後, 平成 27 年 6 月に左下腿筋挫傷, 平成 27 年 8 月に右大腿四頭筋挫傷, 平成 28 年 11 月に右大腿四頭筋挫傷, 平成 28 年 5 月に左大腿四頭筋挫傷, 平成 28 年 9 月に右大腿四頭筋挫傷にて FOSPOC 受診。筋挫傷繰り返すため精査したところ, 第Ⅷ活性が 15% と低下しており, 血友病 A と診断された。

【考 察】

血友病 A は第Ⅷ陰性の活性が 5% 以上の軽症例では, 青少年期以降の外傷性の筋肉内血腫等で明らかになることがある。今回の症例では, 2 例ともラグビー選手であったために, 日常的に打撲や血腫が発生する競技であり, 診断が遅れたと考えられる。軽症血友病の場合は日常生活には支障はないが, スポーツ現場での繰り返す筋肉内血腫を診た際には, 血友病も念頭に置く必要があると考えられた。